

【 第4回 U-22東アジア選手権 】

2016年7月3日～7月10日 中国・蘇州

試 合 結 果 報 告 7 月 10 日 (日)

J P N	VS	C H N (中国)
14	前半	11
11	後半	14
0	第1延長	0
0	第2延長	0
25	合計	25

個人得点

名前	前半	後半	第1延長	第2延長	合計
高光 凌	0	0			0
高野 颯太	0	2			2
浅川 律樹	0	0			0
部井久 アダム勇樹	4	2			6
服部 将成	0	0			0
徳田 廉之助	2	2			4
藤川 翔大	0	2			2
村木 幸輝	3	1			4
山田 翔騎	1	0			1
藤田 龍雅	2	0			2
堀田 陽大	0	0			0
矢野 世人	2	2			4
助安 大成	0	0			0
若狭 圭悟	0	0			0
萩原 奨太郎	0	0			0
					0
					0
					0
合計	14	11	0	0	25

戦評

U22東アジア選手権大会の4戦目は中国と対戦。体格差のある相手に対しても、今大会のテーマとして掲げているハードなコンタクトDFを徹底すること、OF面では的確なポジショニングから個人の強さを出して突破していくことを確認して試合に臨んだ。立ち上がり、日本は№2高野を中心とした5-1DFが機能し簡単に得点を許さない。そこから№11藤田の速攻も飛び出し、開始10分6-3とリードを奪う。中国もポストプレーヤーにボールを集めチャンスを作るが、GK堀田の7mT・ポストシュート連続セーブが飛び出し流れを渡さない。OFでも№5部井久のスピードに乗った突破が決まり、前半20分12-6とリードする展開。そこから日本に退場者が出た間に中国に3連取され、前半を14-11の3点リードで折り返す。後半立ち上がり、日本のミスから中国に3連取され後半2分14-14の同点。そこから日本も3連取し再び突き放しにかかるものの、相手GKの好セーブにより流れを掴めず、再び3連続失点。そこから一進一退の攻防が続く。日本も№8藤川らの速攻により抜け出そうとするが、ノーマークシュートをことごとく相手の大型GKにセーブされる苦しい展開。さらに日本に退場者が相次ぎピンチとなるが、この日好調のGK堀田の好セーブで流れを渡さない。後半28分24-23の1点リードの状況で日本に再び退場者が出る。すぐに中国に追い付かれるものの、後半29分に数的不利な状況で№5部井久がシュートをねじ込み25-24と1点リード。必死に守る日本チームであったが、29分50秒に中国のポストシュートが決まり、25-25の同点で試合終了となった。大きい相手に対して、ポストシュートや9m付近のロングシュート等、中央エリアでの失点が目立ったことや、大型GKに対するシュートの精度等、多くの課題が出た試合であった。大会を通してはハードなコンタクトDFが徹底できたという収穫もあったので、今大会で得た経

報告記入者：

所 努